

第4回古賀市公共交通活性化委員会 会議録（要点筆記）

開催日時	平成26年11月6日（木） 10:00~12:00		
開催場所	市役所 第二庁舎 501・502 会議室	公開の可否	可
事務局	総務部 経営企画課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	鈴木委員長 嘉村委員、後藤委員（代理）、辻委員、越智委員、前田委員、今村委員 廣池委員、河村委員、坂崎委員、三坂委員、高原委員	
	事務局	横田総務部長、河北経営企画課長、小瀧経営企画係長、藤本係員	
	その他	大庭弘幹氏、村上利男氏（西鉄バス宗像）	
議題	・短期的課題に対する取組みの検討		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・レジメ ・第4回委員会資料 		

第4回古賀市公共交通活性化委員会（会議概要）

1. 委員長あいさつ

（委員長）

短期の利用促進やバスの改善を議題に挙げながら議論していきたい。

2. 議題

（1）短期的課題に対する取組みの検討

（事務局）

- ・（1）について、まとめて事務局より資料に沿って説明。

（委員長）

- ・短期の課題について対応策を検討するということで、事務局のほうから27年度の予算についても反映させたいという意向もあり、具体的な議論を重ねていただきたい。ポイントとしては2点ある。

1点目は既存の利用者のサービス改善をいかにしていくか。2点目は新規の利用者の利用をどのように促進していくか。その中で通勤通学をしている人の年齢、高齢者や主婦の生活スタイルの違いによってどんな利用促進があるかの部分をあわせて出来るだけ広い部分で色んな議論を希望している。

まず、資料の路線図における赤・黄・緑・青の路線を市役所に乗り入れてはどうかという西鉄バスからの提案についての意見は？

（委員）

- ・先日ほぼ全部の路線に乗ってきた印象として時間帯にもよるが、ほぼ4、5人の乗客だったので、もっと乗ってもらえるのではとの印象だった。

古賀市の場合ほぼ1時間以内、片道だったら30分以内の路線なので何らかのきっかけさえあれば、自家用車ではなく公共交通に乗ってもらえるのではないかと強く思った。

たとえば、マップを作るときに原バス停の乗り換えのところに高速のバスのタイムテーブルを一緒に載せる工夫があればよいのでは。原バス停の近辺には何にもないので少し案内もあったほうが良い。

基本的にはダイヤについて、使っていただけるような工夫をしてもらいたい。

利用してない方へのPRを強化して欲しい。

人口も6万人弱いるので非常に可能性はあると思った。

古賀市はどこからも30分圏内で駅まで出られるのでコンパクトシティのモデルみ

たいなところではないかと思う。

駅も市内に3つあるので、上手くバスでアクセス、フィーダーすればバスを利用してもらえるポテンシャルを感じた。

(委員長)

- ・利用促進についての意見をなんでも構わないので出していただきたい。

(西鉄)

- ・今リーパスプラザ前バス停は、リーパスプラザの前と郵便局の前と交差点を挟んで両方あるが、バスの系統によっては止まるものと止まらないものがあるのでリーパスプラザのバス停を市役所北に持って行ったらすべて停まるバス停になる。基本的に停まらないバス停があること自体地元の住民には判りづらい。また、郵便局の前で停まると渋滞をおこして地元の住民に迷惑をかけていて、利便性からいっても郵便局前を利用する住民は少ない。

(委員)

- ・市役所に乗り入れる案は非常に良い案と思うので是非お願いしたい。ただし、市役所への乗り入れによって生じる、不都合やデメリットなどについても十分検討したうえで、取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・市役所に行けば路線バスで何処でも行けるように統合すれば、高齢者にもわかりやすいのではないか。一点心配なのは、市役所の駐車場の入口が狭いこと。それについて配慮をお願いしたい。

(西鉄)

- ・市役所から出るのは問題ないが、横断歩道があるのは非常に神経を使うのと、中学校の自転車通学のマナー向上を今一度学校側をお願いしたい。

(委員長)

- ・どのあたりにバス停を作るイメージなのか

(西鉄)

- ・市役所の玄関前を想定している。

(委員長)

- ・市役所を待合場所にしてバス停からの発車時間まで少し時間を設けて高齢者が利用しやすい様にするとか、出来る・出来ないは別にして色々な発想を出していただきたい。

(委員)

- ・乗れないバス停があるのは知らなかった。これは西鉄さんが言われたように統合するのが良いのではないかと思う。
市役所は庄橋の方から入って神社の方から出られるのか、それとも逆か。

(西鉄)

- ・グリーンパークから来た場合は（駅東口行）古賀神社→市役所→左折→駅東口になる。薦野側からは反対ルートになる。

(委員)

- ・古賀橋の方から来た場合の曲がり口が少し狭いように感じる。自家用車で来庁した時にも花壇が出すぎている感じがする。（路面の幅）

(委員)

- ・その場所には大きな観光バスも停まれるので通行には問題ないのでは。

(委員)

- ・路線が集中するということで市のロビーを待合場所として使用すれば、多少時間待ちが発生しても使い易くなるのでは。

(委員)

- ・市の広報にもなり、色々な宣伝を見る機会にもなるのでは。

(委員)

- ・予算の関係もあるが、活性化委員会の意見として挙げたい

(委員長)

- ・既存のものを使いながら、工夫をすれば利便性もあがるのではないだろうか、微調整を含めながらこういった事例を挙げて行って欲しい。
全体像として事務局から色々な案が出たので議論を絞りながら話をしていきたい。
他にも違った視点での事案があれば考えていきたいと思うが意見はないか。

まず時刻表を有効活用しながらどうやって利用促進を図っていくのかという事例と子どもたちや地域など今まであまり利用していない人たちに自分たちのバスだという意識を持たせながらやっていくというPRも含めた施策を考えていきたい。他にも意見があれば。

(委員)

- ・利用促進の立場で言えば福岡市は70歳以上の方に12,000円の無料バス券を支給しているが古賀市もあれば良いと思う。

(委員長)

- ・高齢者の利用促進の観点から予算を含めて検討いただく

(委員)

- ・バスに子どもが乗っているのを見たことがないので、まず子どもの利用促進を考えるべきでは。

(委員長)

- ・他に意見はないか？

それでは、利用しやすい時刻表についての意見は？

※ 参考資料 熊本都市バスの路線表（持ち歩き想定時刻表）

西鉄福岡都市圏の路線表

久留米市広域マップ

(委員)

- ・久留米市のマップは非常に画期的だと思う。久留米市以外のマップを載せている。古賀市で作る場合は周辺の自治体との連携について検討していただきたい。

(委員長)

- ・通勤者の電車の時刻表を載せなければいけないのが一点と鉄道の時刻とバスの時刻の連動性が必要。

(委員)

- ・博多駅発の時刻表と連動した時刻表は欲しい。

(委員長)

- ・例えばどういった時刻表であれば使い易いか。

(委員)

- ・時刻表が一面で全部把握できる感じが良い。

(委員長)

- ・例えば、時刻表をどういった形態で使用するか。

(委員)

- ・必要な箇所だけ切り取って貼っている。

(委員長)

- ・貼って使う想定で一枚あってもいいのでは。

(委員)

- ・電車の時刻表みたいになっている方が見やすい。バス路線のPRと時刻表を分離した方が良い。古賀市と新宮町・福津市との連携もできるのでは。

(委員)

- ・あまり使わないということになるとまずい。使おうと思ったらこういうのがいい。

(委員長)

- ・手持ち用とか、用途に合わせた見やすいものを配布したいということですね。

(委員)

- ・経費がかからないといいのですが。

(事務局)

- ・そこまで変わらないと思う。

(委員)

- ・新宮町では2系統しかないが、古賀は7系統あるから、路線図、隣に平日の時刻表、裏に休日ののが来て、次に2系統目の路線図・・・の繰り返しで携帯用のものがあると便利。

(委員)

- ・全体を俯瞰できるものも必要だが、短期的な利用促進の面で見ると、毎日これを見て移動する人はいない。通勤・通学とかカテゴリに分かれて、ターゲットは決まっている。今使っていない人に使ってもらうことに力を入れるには、自分がどこに住んでいて、どんな目的でどこに行くのかというしぼられた情報が見れたほうがいい。スマホで見られる西鉄のはコンテンツとしていい。すごい量の情報を見せられても見ない。地域ごとの意見交換会ができるなら、その地域の高齢者が病院に行きたいとき、この時間にこのバスがあるなど絞った情報を絞ったターゲットの人たちに確実に渡せるものが必要。車で行けばいいと思っていた人に情報が伝われば利用促進になる。印刷コストも考えないといけないが、なるべくお金をかけない工夫をして啓発・利用促進の活動が出来るのでは。

(委員長)

- ・実情に合わせた地域別の配布物、情報提供での活性化の方法もある。回覧板で回すとか。先にどういう情報が必要なのか話し合ってもらって、地域発の利用促進ができる。

(委員)

- ・JRの3駅があるから、その時刻表が欲しいと思った。高速バス系統（原）も。市外から来る人に乗り継ぎがわかりやすい。

(委員)

- ・3号線を通して天神へ行く路線は古賀に来ているか。

(事務局)

- ・走っています。

(委員)

- ・そこで乗り換えて一気に行く方がいるのか。都市高を利用している3号線の路線は本数が多いことから、天神行きのバス路線との乗り継ぎの情報も必要なのでは。

(委員)

- ・その路線はよく遅れるから時刻表が役に立っていない。あれは大動脈。重要。

(委員長)

- ・それに乗れる（乗継ができる）バス停が明確になればいい。

(委員)

- ・地域の人は大体わかっている。

(委員)

- ・高速バスが停まるのとか、種類が色々あるのでは。よくわからない。

(委員長)

- ・3号線を運行するバスは時刻表がいらぬぐらいの便数があるので、地図を配布するなら、天神行はこのバス停、バス停がずれているならここでいいのか、など情報として載っているといい。

(西鉄)

- ・舞の里は千鳥パークタウンから乗る人が多い。工業団地は鹿部。あと花鶴ヶ丘団地が多い。薦野、筵内から乗り換えた人が庄。ちなみに値段が高くて、千鳥パークタウンから天神まで720円。5枚つづりの回数券もある。学生さんは結構使っている。会社員の方は通勤費が出るからある程度は乗っている。だが土日にこの値段で遊びに行くのか。

(委員長)

- ・この地図上だと見づらいなのでぜひ載せたほうがいい。

(委員長)

- ・広域で考えたほうがいいという意見については、福津・新宮というイメージでよろしいか。福津ならイオンに絡む情報とか、全部載せずに強弱があったほうがいい。こういうのがあったらいいとかいうご意見はないか。

(委員)

- ・それほど必要なのかよくわからない。

(委員長)

- ・例えば、福津でいうと古賀市ギリギリのところを路線が走っているが、古賀市民にとっては上手くいったら電車に乗りやすくなるとか、市を超えて1歩出るとものすごく楽になるバス停があるなら、そういうのは載せたほうが市民の利便性が上がる。市域ギリギリのところに住んでいる人はもしかしたら現状では使いにくいというのがあるかも。

(委員)

- ・イオンにバスに行ってもらおうとして、毎日ではなく週に1回、2週に1回とかだろ
うから、少しは利用促進にはなるが、それより通勤・通学にターゲットを絞ったほ
うが短期的に成果を挙げられるのでは。

(委員長)

- ・情報量が膨らんでいくと逆に見づらくなるというのもあるから、ターゲットを絞る。
そこから利用向上につながり、波及していけばということですね。
異論がなければ、通勤・通学の他にどういう目線を入れてほしいかを挙げてほしい。

(委員)

- ・高齢者、病院。

(委員)

- ・すべてを網羅するのは大変。一般的なものを通勤・通学者に絞って、高齢者に絞っ
たものは地域の医療機関と連携したり、健康づくり・予防のPRの記事と合わせて
情報を出したりとか、届く所のターゲットを絞った方法がいい。

(委員長)

- ・バス担当の部署でなく福祉などの担当の部署から情報を出すという方法ですね。委
員会としては、通勤・通学または一般的な利用促進のイメージした視点で配布物を
作り、高齢者など特定の利用者を考えたときは部署と連携して利用しやすいバスの
時刻を入れて、利用しやすいものを提供するというのを提案していきたい。
地域に応じて議論をする場を作り、それに合わせて情報を提供するという意見があ
ったが、公共交通を支える意識を作る、サポートする役割を果たすだろうし、必要
な情報を伝えるという効果につながる。
地域でバスのことを考えたり、案を出したりするとき、どういったことをしたらよ
いかご意見は。

(委員)

- ・地域ごとに特徴があるから、それぞれに説明会が必要。体験乗車会とかもあつたら
よい。

(委員)

- ・お年寄りで足が悪い方など、バスに乗れたらうれしいと言われるが、バス停が遠い
と乗れない。小さくていいから路地に入れるバスがあると助かる。

(委員)

- ・そういうのも地域の中でないと出てこない意見だと思うから、それぞれ地形・年齢など違うのでぜひ意見交換会を開いてほしい。

(委員長)

- ・とにかく色々な意見を聞いて、どういう要望があるのか、また地域の人が考えるのが地域でバスを支える土壌にもなるから、1、2年の段階で公民館等を利用してできるので進めてほしい。
子どもが全然乗っていないとか、顔ぶれが変わらないという状況があるが、将来への利用促進策はあるか。

(委員)

- ・やっているかもしれないが、バスの乗り方教室とかをしている自治体はある。ターゲットは小学校3年とか4年生。将来使っていただくターゲット。モビリティマネジメント (MM)。それを実施しているところは多い。そこで乗り方とか、ICカードの使い方、降りるときの安全確認、車椅子の乗せ方、高齢者への配慮とかを学習する。
子どもたちにバスの関係の絵を募集して、車内に貼る地域もある。自分が描いた絵があるので家族みんな乗る。

(委員長)

- ・西鉄さんもギャラリーバスはされていますね。年に1回でいいのか、時には書道とか、西鉄さんとの協力の問題もある。乗り物教室は、先に中学生の自転車が危険という話があったが、そういう場合、おそらく中学生はバスを邪魔だと思っているが、小学校の時にバスって街の人に重要なんだというのを教えておくのもいい。

(委員)

- ・古賀市の東側に住んでいるが、小中学生を見ても自家用車が多くて公共交通機関を使ったことがない人が少なくない。使うという観点がない。啓発するなら小学生のときに無料で乗れるとか、乗ってこういう移動ができると学習できる機会があるといい。外国で、小学生向けにオリエンテーリングのようなものをバスでやって、街にこういうバスがあるというのを周知させるイベントがあるのを見たことがある。あなたたちは中学生になったら自転車に乗るが、バスから見たらこんなに危ないとかいうのを学習できる場があるといい。

(委員長)

- ・子どもたちに向けた取り組みも具体的に進めてほしいと提案したい。全体として、短期的な課題として何かご意見はないか。

(委員)

- ・先ほど70歳以上無料とか、モビリティマネジメントとかの話があったが、交通だけでなく教育や福祉にまたがっているので、庁内で他の担当部署と連携をとってほしい。

(委員長)

- ・次回、長期的な対策の話をするが、短期でもこういうのが重要というのがあれば出してほしい。

(事務局)

- ・今回で短期的な対策を出していただいたので、予算に向けて動きたい。次回、2月、4月、6月で1回ずつ行いたい。皆さんの任期は来年6月26日までという事になっており、区長さんの交代があるかもしれないが、あと3回お願いします。
- ・以前にも説明したが、サンコスモシャトルバスは平成23年途中から実験運行でジャンボタクシー程度のバスを無料で出しているが、毎年、来年はどうするか検討して、続けようということで今に至る。せっかく皆さんに来ていただいているのでご意見をいただきたい。昨年度実績で1便当たり0.7人。運賃は頂いていないので当然費用が発生し、1人運ぶのに930円かかっているという状況。どうするべきかご意見をいただきたい。

(委員)

- ・そもそも、導入した経緯は？

(事務局)

- ・当初、市役所の建物の位置の問題で、サンコスモが平成9年にできて市役所から離れて移動手段がないのでその往復専用で始まり、その後24年ごろ、ひだまり館ができたのでそこまでの移動手段ということで延長した。あくまでも市の施設の利用者の為のものという位置づけ。

(委員)

- ・地図で見ると西鉄バスの黄色の路線を少しひだまり館のほうに移動できないのか。

(事務局)

- ・黄色の便は1日2往復だけの便なので、仮に動かしても利用者にとってはどうかというのはある。

(委員)

- ・選果場前から新原の間にバス停はないですね。ないならひだまり館に回ってから新原に行ったらいい。

(委員)

- ・サンコスモと市役所の間を行き来するような利用はあるのか。

(委員)

- ・目的は何なのか、何のために無料なのか。一般利用を含むのなら路線がどうかにならないかという議論にもなるし、利用者数の事もあるがどういう意図があるのか整理した上で、これが必要でこの路線、というのを考えたほうがいいのでは。

(事務局)

- ・当初、庁舎が離れているから、住民の方が住民票と福祉部門とに要件がある際の不便さを解消するために始まった。利用者は少ないが、駅まで行ってほしいという意見はある。タクシー会社を利用して、バスとは違うので、西鉄バスには駅まで路線があるので競合することとなり駅までシャトルバスでは行けない。あくまで公共施設を繋ぐ路線。

(委員長)

- ・例えば、西鉄バスに委託したら駅まで行けるのか。そうすると新たな路線ができ、今1日2往復なら、市が補填をするような路線になると思うが、一般の人も乗れて、西鉄バスの路線の戦略の中で市の要望を合わせて路線を新規に作るという委託の方法もあるのでは。

(委員)

- ・先ほどの話だと、1日1万円ぐらい使っているのか？

(事務局)

- ・2万円弱です。

(委員)

- ・10日で20万円・・・となると無料といいながら行政経費で負担されているから、本当に1日10人ぐらいの方が困ってらっしゃるのか考える必要がある。公共交通が無料というのはあまり望ましくなく、受益者負担だから使う方が100円でも200円でも払うのが平等かと思う。その辺をどう整理されるか。必要なら黄色の路線を活用するのかということになる。このまま続けるのはいかがかなと思う。

(事務局)

- ・町から市になったとき、福祉事務所を作らないといけなくなり、同じ敷地に作りたかったが上の階にのせられず離れた場所になった。市の都合で別の場所になったので、転入・転出でも福祉関係の手続きを同時にすることもあるのでその移動を担保するために始まった。乗る方が非常に少なく、一度止めた経緯がある。しかし、数年あけてやはり必要であるとの市民の声があり、今度は実験運行ということで始めた。それでも、やはり乗る方が少ない。増やそうと思うと、乗っている方のご意見で駅まで接続しないと不便という声があるが、無料で不特定多数を乗せることになるから、西鉄の営業路線とかぶると駅に接続は無理だということで迷っている。路線バスとして新たにシャトル便のような路線を作るのが可能なのか、我々が始めた経緯を考えても、利便性の向上のために有料路線として運行するものなのかなというのがある。

(委員)

- ・ひだまり館でも手続きはあるのか。

(事務局)

- ・法律相談、就労相談など、市民全体に向けて行っている。

(委員)

- ・西鉄さんをお願いして黄色の路線をちょっと移動させて・・・と思う。

(西鉄)

- ・ひだまり館にバスが入る場所がない。敷地が狭くてUターンできない。小さなバスだと可能かも。

(委員長)

- ・長期的にこの路線をどういう位置づけするか。短期的には市の事情でスパッと切るのとはできないだろうが、無意味に何百万を毎年出すのももったいない。うまくやれ

るなら、西鉄さんと相談して委託など含めて検討し、少なくとも今より予算に対する利便性があがらなければ、もったいないというのが委員会としての意見。委託も含めて検討してほしい。長期的には次回合わせて議論したい。本日はこれで終了とさせていただきます。

(事務局)

- ・次回、年明けにご連絡させていただく。短期的な点、思いついたら電話等でも構わないのでご連絡いただきたい。

地元の利用される方の意見をお聞きになってほしい。議会において、アンケート調査でほとんど使っていないという意見が多く、利用者の意見をもう少し反映してほしいという指摘があった。